

アンケートの分析結果について

1. 救急に関するアンケートについて

(1) 回答数等

対象病院は12院であり、うち10院より回答を得られた（回答率83％）。

※うち、公開可とした9院の回答全文については資料1－6に掲載。

(2) 回答のあった10院の結果分析

ア 余力

現状以上に受け入れたい	3
現状と同程度であれば持続可能	7
余力がなく、受入を減らしたい	0

イ より高次の医療機関からの患者の転院を受ける機会

ある	5
ない	5

2. 回復期リハビリテーション病棟に関するアンケートについて

(1) 回答数等

対象病院は7院であり、うち4院より回答を得られた（回答率57％）。

※うち、公開可とした2院の回答全文については資料1－6に掲載。

(2) 回答のあった4院の結果分析

ア 稼働率

9割以上	2
7～8割	2

イ 余力

現状以上に受け入れたい	1
現状と同程度であれば持続可能	3
余力がなく、受入を減らしたい	0

3. 地域包括ケア病棟に関するアンケートについて

(1) 回答数等

対象病院は5院であり、うち4院より回答を得られた（回答率80％）。

※うち、公開可とした4院の回答全文については資料1－6に掲載。

(2) 回答のあった4院の結果分析

ア 稼働率

9割以上	1
7～8割	2
5～6割	1

イ 余力

現状以上に受け入れたい	1
現状と同程度であれば持続可能	3
余力がなく、受入を減らしたい	0

ウ 入院対象となる患者状況

急性期治療は終わったが、自宅への復帰のため引き続き経過観察や治療が必要な患者	4
自宅への復帰や社会復帰にむけて、リハビリテーション加療が必要な患者	3
自宅や施設で生活中に体調不良を認め、集中治療の必要はないが入院治療が必要な患者	4
レスパイトが必要な患者	4

ウ 回復期リハ病床に入院している、あるいは入院可能な患者の医学・身体的な状況

医療機関別	回復期リハビリテーションを要する状態の患者（別表第九の二）に該当する患者であれば医学・身体的な状況は問わないが、設備の関係上、体重が120kg以上ある患者については要検討
	回復期リハ病棟疾患対象であること、蔓延性意識障害が無くリハ指示に応じることができる、持続点滴などリハの妨げになる治療が終了している患者。
	急性期治療が終了している患者、リハビリテーションに対しての拒否反応がない患者。透析・人口呼吸器装着した患者や抗癌剤治療中の患者は不可。
	急性期治療を脱しており、常用的に高額薬剤を使用せず、リハビリによって回復が見込める患者。